

血液腫瘍科臨床研修プログラム

【指導医】

若山 聡雄（医療局次長、 医師事務作業補助部長）：医学博士/日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 /日本血液学会血液専門医・指導医・中国四国地方会評議員/日本内科学会中国支部評議員 / 日本骨髓腫瘍学会代議員 / 日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医/日本輸血・細胞治療学会日本造血・免疫細胞療法学会細胞治療認定管理師/日本救急医学会 ICLSインストラクター/日本内科学会JMECCインストラクター / 島根大学医学部臨床教授 / 緩和ケア研修会修了/がんのリハビリテーション研修会修了/チームで実施するがん化学療法研修会修了/臨床研修指導医/医療情報学会医療情報技師

三宅 隆明（血液腫瘍科部長）：医学博士 /日本内科学会 認定内科 医・総合内科専門医・指導医/日本内科学会 中国支部評議員 /日本血液学会 血液専門医・指導医・中国四国 地方会 評議員/日本骨髓腫瘍学会 代 議員/日本リンパ腫瘍学会 評議員/日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医/緩和ケア研修会修了 /臨床研修指導医/悪性リンパ腫治療研究会 幹事

高橋 史匡（血液腫瘍科医長）：日本内科学会認定内科医/日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医/臨床研修指導医/緩和ケア研修会修了

大國 典子（血液腫瘍科医長）島根がんのリハビリテーション研修会修了/ 臨床研修指導医 / 緩和ケア研修会修了

【期間】 4 週間～ 8 週間

【一般目標 GIO】

内科診療の基本を身につけ、患者を POS システムによる診療ができるように、血液疾患の患者の診断、検査、治療を習得する。患者さんや医療スタッフあるいは指導医とのコミュニケーションが取れること、基本的な診察、検査、治療手技が行えること、治療学の基本的考え方を理解することを目標とする。さらに患者の社会的、精神的背景を理解し、心のケアを含めた全人的な医療ができる。

【行動目標 SB0 s】

1. 一社会人として良識ある行動を行いその責任を自覚すること。（挨拶、時間厳守等）
2. どのような状況下でも患者、医療スタッフ、上級医や指導医と円滑なコミュニケーションを取ることができる。
3. 採血、血管確保を行うことができる。
4. 検査担当患者を診察し、検査計画を立案し、その結果について適切に解釈することができる。
5. 末梢血や骨髓の塗抹標本やリンパ節標本などを検鏡し、解釈できる。
6. 検査結果をもとに、診断ならびに治療計画を立案することができる。
7. 感染症を適切に予防し、発症時には上級医・指導医のもとで適切に治療ができる。
8. 輸血療法について上級医・指導医のもとで安全かつ適性に行うことができる。
9. 抗がん薬治療を、決まったプロトコールにしたがって、副作用などを理解し、上級医・指導医のもとで実施できる。
10. 治療に伴う合併症に対し適切な判断や治療を行うことができる。
11. 上級医・指導医のもとでオンコロジー・エマージェンシーの対応、白血球減少時の対応、疼痛管理、栄養管理などができる。
12. カンファレンスで受け持ち患者のプロブレムを的確に報告できる。
13. 上級医・指導医のもとで、患者家族に対して、病状説明ができる。
14. 上級医・指導医のもとで、骨髓穿刺・生検、腰椎穿刺（髄腔内投与）、胸水・腹水穿刺、しゃ血を行うことができる。

【方略 LS】

1. 5 人前後の入院患者を受け持ち、上級医・指導医の指導のもと主体的に診療に従事する。
2. 入院患者の問診、診察を行い、診断・治療に必要な診断計画、治療計画を自ら立案し、上級医・指導医と討議を行い決定する。
3. カンファレンスに参加して症例呈示を行い、上級専門医の視点から検査・治療計画の指導を受け、実施し、結果について討議を行い理解を深める。
4. 救急患者が来院した場合には指導医・上級医とともに診療に当たる。
5. 島根大学血液内科との合同カンファレンスに参加する（月 2 回）。
6. 血液に関連する学会（総会、地方会）・研究会などに参加し、筆頭演者として発表する。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	9:00 カンファレンス 病棟	9:00 カンファレンス 病棟	9:00 カンファレンス 病棟	9:00 カンファレンス 病棟	9:00 カンファレンス 病棟
午後	病棟 17:00 カンファレンス	病棟 17:00 カンファレンス	病棟 17:00 カンファレンス	病棟 17:00 カンファレンス	13:30 病棟カンファレンス 17:00 カンファレンス
その他	救急対応、 外来検査	救急対応、 外来検査	救急対応、 外来検査	救急対応、 外来検査	救急対応、 外来検査

【評価 Ev】

1. 研修医による評価
 - (ア) 自己評価：PG-EPOC（EPOC2）を用いて自己評価を行う。
 - (イ) プログラム評価：PG-EPOC（EPOC2）を用いて診療科（指導内容・研修環境）の評価を行う。
 - (ウ) 指導医の評価：評価票を用いて指導医・上級医の評価を行う。
 - (エ) 指導者の評価：評価票を用いて主として患者が入院している病棟で指導者に任命されている看護師、病棟担当薬剤師、検査技師の評価を行う。
2. 指導医による評価
 - (ア) 研修医の評価：PG-EPOC（EPOC2）を用いて行う。
 - (イ) 自己評価：評価票を用いて自己評価を行う。
 - (ウ) プログラム評価：評価票を用いて血液腫瘍科のプログラムの評価、病院全体のプログラムの評価を行う。
 - (エ) 指導者の評価：評価票を用いて病棟で指導者に任命されている看護師、病棟担当薬剤師、検査技師の評価を行う。
3. 指導者による評価
 - (ア) 研修医の評価：評価票を用いて行う。
 - (イ) 自己評価：評価票を用いて自己評価を行う。
 - (ウ) 指導医の評価：評価票を用いて自己評価を行う。